

平成26年度1学期

杵築市立東山香小学校

【学校教育目標】 「生き生きとした笑顔が集う学校」 ～「わかった!」「ありがとう」「やったー!」で満ちあふれた子どもの育成～

【今年度の目標と目標達成に向けた方策】

- (1) 「考える子」の育成
 - ① 課題とまとめが明確なわかる1時間完結型授業の実現
 - ② 基礎基本の定着に向けた支援(国語・算数の毎時間の授業で10分以上の補充学習等)
 - ③ 個人カルテの活用
 - ④ 家庭学習の時間確保
 - ⑤ 全校視写の実施(1年は音読)
 - ⑥ 読書習慣づくり(年間2000冊)
 - ⑦ 地域の教育力の活用
- (2) 「やさしい子」の育成
 - ① 学習規律の徹底(自分みがきカードの活用)
 - ② 3あ運動「あいさつ、あんぜん、あとしまつ」の徹底
 - ③ 「雨にも負けず」の暗唱
 - ④ 帰りの会の充実「ほめる」
 - ⑤ ていねいな言葉づかいの指導
- (3) 「がんばる子」の育成
 - ① 体育の時間の前半15分の体力を高める運動の実施
 - ② 全校体育で体力向上を図る。
 - ③ 生活習慣の育成・・・「早寝・早起き・朝ご飯」の指導
 - ④ 健康教育・食育の充実

※中間評価ですので特徴的な事柄のみについて、簡潔に記述してください。

評価項目 (重点目標)	評価指標 (達成指標)	評価内容 (重点的取組)	取組指標	学期末評価		自己評価		学校関係者評価
				1	2	成果及び達成状況	改善方策等	
基礎・基本の定着	国語・算数の日頃のテストで学期平均で全員8割以上の得点(84%↓3)	すべての子どもに課題とまとめが明確なわかる1時間完結型授業を徹底する。	○全教職員が学期に2回以上の授業公開を行う。	4		取り組みについては100パーセント以上行うことができたが、「わかる1時間完結型授業」という点では更なる取り組みが必要だと思われる。	○特に、算数の授業において、振り返りを行う。(チェックシート) ○「学習カルテ」を毎時間確実に記入。 ○個に応じた指導のあり方を校内研究で探り、実践に結びつける。	○日頃の様子から考えて、どの子ども遜色なく力がついていると思う。 ○書く力等も身につけている。これは、少人数の良さを生かして、一人あたりに対する声かけや添削指導が濃く行われていることが原因ではないか。
		国語・算数の補充学習を毎時間実施する。	○国語・算数の毎時間の授業で10分以上の補充学習を行う。	2		時間内の補充学習については不十分な取り組み状況である。完全実施に向けて工夫すると同時に、時間設定等に無理がないか考える必要がある。	○確実に補充学習の時間を捻出するために「授業のねらいが一言で言えるまでにしほり」その点においてのみ思考させるようにする。本時に必要な既習事項は、導入でおさえ、板書する。	○1時間の授業の中で、学習したことがきちんと身につけているかどうかを確認し、身につけていなければ、再度確認するまでを1時間で行いたい。2学期の実践に期待する。
		落ち着いて学習できるように学習規律を徹底する。	○「自分みがきカード」で毎日の振り返りを実施する。	3		取り組みの面では、毎日の振り返りが完全に実施できている。学年差や個人差があるので、それぞれに合わせたものにしていく必要がある。	○個に応じて、評価目をしほり、毎日評価。 ○全部の項目については学期1回評価。 ○教師用アンケートは学期1回に減らす。	○学童等の様子を見ると、東山香の子どもたちは、姿勢や集中力の点で、非常に優れていると思う。
		粘り強く学習に取り組めるように、体育の時間に毎時間体力を高める運動を実施する。	○体育の時間の前半15分で体力を高める運動を実施する。	4		取り組みの面では完全実施できている。体カテストの結果の分析の結果、敏捷性や持久力についてのびが見られたが、握力、柔軟性、走力の面で弱さが見られた。	○今後、朝トレや体育の時間に3点(握力・柔軟性・走力)を強化する体操を組み込む。	○集中力は他校に比べても勝っていると思う。

学校名

市立

学校

【学校の教育目標】

学校の教育目標達成のために、実現可能で検証可能な項目に具体化します。
（知・徳・体の3つである必要はありません）

これが達成できれば、「重点目標」達成と見なす「**児童生徒がどう変わったかという変容に着目した指標**」です。
※中には、学期ごとの達成指標を設定している学校もあります。

「重点目標」達成のための**具体的な取組**（3つ程度）です。

重点的取組について「**具体的に誰が、何を、どれくらいの頻度で行う**」というものです。**組織的に（担当者全員で）**取り組むことが重要です。

学期末には、「重点的取組」「取組指標」が**実施できたか**5段階で評価（**短期のPDCA**）します。
※さらに短期を検討している学校もあります。

重点目標	達成指標	重点的取組	学校の取組指標	評価	改善点
基礎・基本の定着	○独自のチェックテストを実施し、本年度当初の低位層の割合を年度内に半減する。	○全ての子どもに、めあてとまとめが明確にわかる1時間完結型授業を徹底する。	○全教職員が、学期に3回以上、互見授業を実施する。	4	検証および各種調査の結果から、「重点目標、達成指標、重点的取組、取組
	【チェック】 自校における喫緊の課題でしょうか？	○スキルタイムを設定し基礎・基本の定着を図る。	○毎日朝読書の後、全教職員で、8:20~8:35の15分間実施	3	H26年度、県下40校程度の小・中学校を「目標協働達成校」に指定し、家庭や地域にも「取組指標」設定して取組を進めてもらうことにしています。指定校で使用するシートは、「 学校の取組指標 」となるため、ここで同じ表記にしています。
	○次年度の大分県基礎・基本の定着状況調査で1段階の児童の割合を5%以内にする。	○家庭学習の時間を確保する。	○担任教員が、毎日、児童の家庭学習ノートをチェックし指導する	3	【チェック】 「取組指標」の効果について評価するのではなく、「取組」がどの程度 実施 できたかを評価していますか？

【チェック】

- ①物差しと数値目標はありますか？
 - ②これを達成したら、重点目標が達成されたと言える内容になっているでしょうか？
 - ③また指標は、前年度の状況も踏まえた、適切なレベルになっていますか。
- ※物差し（学校評価アンケート、単元テスト、観察等）、評価の内容（項目）や方法（時期など）を工夫している学校があります。

【チェック】

「～させる」「～の充実」などのねらいや目標ではなく、学校全体で取り組む内容になっていますか？

【チェック】

頻度（＝期間や回数）がありますか？

学期末評価について

- 重点的取組・取組指標の内容を実践できたか、5段階評価で記入願います。
 - 二学期制を採用している学校は「1」を前期、「2」を後期とします。
- 【評価点の基準】
- 1…著しく未達成（達成度50%未満）
 - 2…未達成（達成度50%～80%）
 - 3…ほぼ達成（80%以上で完全達成には及ばない）
 - 4…完全達成（計画通り100%達成）
 - 5…大幅に上回って達成（目標以上の成果を生んだ）